

「谷村城下町とその時代を彩る文化」開催中

先月に引き続きまして、開催中の市制50周年特別展「谷村城下町とその時代を彩る文化」の紹介をいたします。

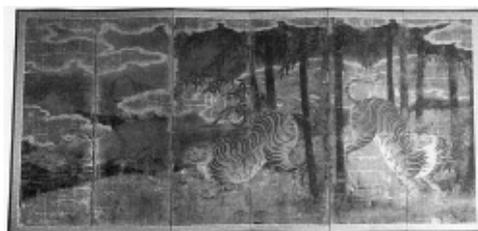
城下町とは、城を中心に広がる町並みを指しますが、現在でも都留市には寺院や神社、町割や地名が残っており、その姿をしのぶことができます。今回の特別展では、市内の寺院に寺宝として伝えられてきた貴重な資料も展示しております。長安寺の「茶壺」(市指定有形文化財)は、天正17年(1589)年に谷村を訪れた徳川家康が、当時の領主・鳥居元忠を通して同寺の開山である生譽上人に贈ったとされるものです。長生寺の「龍虎梅竹図屏風」(県指定有形文化財)は、17世紀初頭に領主であった鳥居成次(元忠の三男)により寄進されたもので、古法眼(狩野元信)の筆によるものと伝えられております。円通院の「涅槃図」(市指定有形文化財)は、江戸時代前期に谷村藩の100人以上の女性が寄進したという特筆的な資料です。西涼寺の「錦九条の袈裟」(市指定有形文化財)は、増上寺の十二代・観智国師が徳川秀忠(二代将軍)から拝領したもので、同寺の開山である深譽上人(観智国師の弟子)が観智国師から賜ったと伝えられるものです。

また、谷村城下町から離れていった資料も今回の展示では紹介しております。「黒踏天目利休所持之品」と伝えられる茶碗です。谷村藩の二代目藩主・秋元富朝から家臣の岡谷三太夫に下賜されたとされるもので、秋元氏が谷村藩から転封した後、川越、山形、館林などの各地を巡り、およそ300年ぶりに里帰りが実現しました。

谷村城下町の最盛期ともいえる江戸時代前半に活躍した小堀遠州とその関連資料などもあわせて展示いたしております。この機会に、古き良き時代の文化的な資料を鑑賞して、当地の歴史に親しんでいただければ幸いです。



涅槃図 相覚筆
都留市指定有形文化財
(円通院蔵)



龍虎梅竹図屏風
山梨県指定有形文化財 (長生寺蔵)

会 期	11月3日(水)まで
開館時間	午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)
観覧料金	一 般 600円(420円) 高・大学生 400円(280円) 小・中学生 200円(140円) ()内は20名以上の団体料金
休 館 日	月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館し翌日休館)・第三火曜日・祝祭日の翌日

関連イベント

「呈茶会」

日 時 10月3日(日) 午後1時～
場 所 都留市博物館「ミュージアム都留」・エントランスホール
※展示を観覧された方先着50名様に茶器をプレゼント

「茶 会」

日 時 10月17日(日) 午前10時～午後3時
場 所 芭蕉寓居「桃林軒」(都留市ふるさと会館南側) ぴゅあ富士

会 期 11月14日(日)～12月19日(日)

○次回企画展のお知らせ
芭蕉のさと企画展
「甲州俳諧展」
「山口素堂の学識と文学」

休 館 日 月曜日(この日が祝祭日の場合は除く)・祝祭日の翌日・第三火曜日

※入選作品については、10月9日(土)からふるさと会館1階展示ホールにて展示いたします。

会 場 ふるさと会館2階 増田誠美術館 他

開館時間 午前9時～午後4時30分 (但し、最終日は正午まで)

芭蕉月待講座
「山口素堂・学識と文学」

日 時 10月26日(火)
午後6時30分～7時30分

内 容 「展示の面白さ」

講 師 都留文科大教授 楠元六男

場 所 都留市博物館

参加費 無料

「ミュージアム都留」研修室

増田誠美術館
「増田誠大賞 入賞作品展」

会 期 10月3日(日)～24日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分